

本文章已註冊DOI數位物件識別碼

- ▶ 漢語の造語成分について—「～状」「～書」「～費」
「～料」「～賃」「～金」「～代」を中心に—

doi:10.29714/TKJJ.200205.0006

淡江日本論叢, (11), 2002

作者/Author: 蕭碧盞

頁數/Page: 112-134

出版日期/Publication Date: 2002/05

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

<http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.200205.0006>



DOI Enhanced

DOI是數位物件識別碼 (Digital Object Identifier, DOI) 的簡稱，
是這篇文章在網路上的唯一識別碼，
用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 <http://doi.airiti.com>

For more information,

Please see: <http://doi.airiti.com>

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE



漢語の造語成分について

—「～状」「～書」「～費」「～料」「～賃」「～金」「～代」を中心に—

淡江大學日文系

副教授 蕭碧璽

論 文 要 旨

日本語と中国語は同じ漢字を使うのでよく「同文同種」と言われているが、その実日本の漢語と中国語には大きな差異を認めることができる。本小論では漢語の造語成分の中、「～状」、「～書」、「～費」、「～料」、「～賃」、「～金」、「～代」を取り上げ、その解釈をめぐって三省堂、講談社、岩波の国語辞典及び広辞苑、更に中国の『辞海』からそれぞれその異同を羅列し、更に用例を示し、これが如何に中国語訳にかかわっているかを例を挙げ、最後に帰納分析することによって、日本語学習者、特に中国語を母語とする台湾の学習者の一助に資するものである。

キーワード

漢語・和語・和製漢語・混種語・基礎語

一. はじめに

漢字の語彙を理解することは、母国語が中国語の人にとって格別難しい事ではない。しかし、日本語が母国語でない学習者にとって、日本語の中に出てくる漢語は、母国語である中国語と同じとは限らない。このため先入観による誤解が生じやすい。台湾の日本語学習者にどのようにして「漢語の造語成分」(注1)の「～状」「～書」「～費」「～料」「～賃」「～金」「～代」を学んでもらうか。その使用上の原則をさがすのが小論の目的とするところである。小論で利用させてもらった参考資料は台湾の日本語学習者が取得しやすく、また大学の日本語学習者にもっともよく利用されている国語辞典(注2)及び日本語教科書(注3)からである。

二. 考察と分析

(1) 初歩的考察

本項では、「～状」「～書」「～費」「～料」「～賃」「～金」「～代」の漢語の造語成分について考察していく。「～状」と「～書」あるいは「～料」・「～賃」・「～金」・「～代」などは日常のかつ一般的に使われている語であるので、その日・中の造語成分も同じではないかと思われがちである。しかし全く同じかという点、どうもそこまでは断言できない。小論では日本語からの説明と中国語からの説明の両者を検討し、明確な使い方を研究する。その正確さを期するため、ここでは日本の国語辞典及び中国の辞典(注4)を使用し、分析を試みる。

(2) 資料と分析

資料の出所は日本語の教科書と「逆引き広辞苑」(注5)に出てくる「～状」「～書」「～費」「～料」「～賃」「～金」「～代」の漢語の造語成分である。また『辞海』(注6)などの中国語辞典を利用し、日華辞典(注7)をも詳しく調べ、特に日華辞典にないものは資料として採用しないようにした。

1 「～状」

1-1 「状」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は

手紙。漢語の造語成分。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

書き付け。手紙。(例)質問状・賞状・書状・免状。《接尾的》年賀状。紹介状。

丙. 岩波の「国語辞典」では

書き付け。手紙。

丁. 広辞苑では

①ありさま。ようす。状態。「鱗状」。

②事情を具して上申する書。訴状。陳述状。

③手紙。書状。

と書かれている。

1-2 「～状」の用例(注8)

以下に、実例を示し、分析を加えてゆく。()内は教科書名、ページ数。

例1 推薦状を書いていただきました。(『理解から発話へ』 解答・留意点 6P)

例2 推薦状、どうになりましたか。(『理解から発話へ』 46P)

例3 案内状はどうでしょうか。(『理解から発話へ』 98P)

例4 結婚式の招待状をもらいました。(『理解から発話へ』 190P)

例5 こちらこそどうぞよろしく。年賀状をどうもありがとうございました。

(『こんにちは日本』1月号 96P)

例6 それはお正月の年賀状と夏の暑中見舞いです。

(『こんにちは日本』7月号 36P)

例7 元旦に年賀状が来ないと、やっぱりさびしいものですよ。

(『こんにちは日本』12月 30P)

1-3 「～状」の造語及び中国語訳(括弧内は中国語訳)(注9)

賞状 信用状 請状 免状 預かり状 案内状 暇状

(獎状) (信用状) (承諾書) (許可證) (存單) (通知) (解雇書)

委任状 仕切状 売り渡し状 運送状 送り状 賀状

(委任状) (結帳清單) (賣買證明書) (運貨單) (送貨單) (祝賀信)

感謝状 起訴状 決闘状 公開状 告訴状

(感謝函) (起訴書) (戰書) (公開信) (控告書)

| | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 謝状 (感謝信) | 紹介状 (紹介書) | 招待状 (請帖) | 書状 (書信) | 信任状 (信任状) | 新年状 (賀年片) |
| 年賀状 (賀年片) | 免許状 (許可書) | 遺言状 (遺書) | 譲り状 (譲與状) | 離縁状 (離婚書) | 礼状 (感謝函) |
| 連判状 (連署書) | 詫状 (道歉信) | 推薦状 (推薦書) | | | |

1-4 「～状」の分析 (注10)

- ①. 漢語の語彙は「信用状」「委任状」「起訴状」「信任状」などである。中国人の使用する『辭海』にもこれらの語彙があり、中国語の意味と日本語の意味は同じである。更に日本語としては完全な音読みの語彙である。
- ②. 和製漢語(注11)的語彙は「請状」「免状」「案内状」「暇状」「仕切状」「見舞状」などである。中国語にはこのような語彙はない。ただ漢字の意味から考えると日本語とはまったく別の意味であり、日本人の造語と考えるべきである。
- ③. 「年賀状」は中国語の(賀年片)(注12)、「紹介状」は中国語の(紹介信)など、「年賀」と(賀年)「紹介」と(紹介)のように字の順序が倒置する。
- ④. 「免状」も「免許状」も漢語ではない。「免状」は「免許状」より使用範囲が広い。

2 「～書」

2-1「書」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

用件を書いたもの。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

書いたもの。書き付け。《例》願書・投書。(名)手紙。

丙. 岩波の「国語辞典」では

書き物。書き付け手紙。

丁. 広辞苑では次のように述べている。

- ①文字を書くこと。また、書かれた文字。書法。筆跡。「～が上手だ」
- ②文書。書物。「～を読む」。

③手紙。書翰。

2-2 「～書」の用例

以下に実例を示し、分析を加えてゆく。()内は教科書名、ページ数。

例1 領収書が必要です・店の人に言います。 (『みんなの日本語』進級Ⅱ85P)

例2 あのレストランはおいしいですか。(案内書に書いてあります)→

(『みんなの日本語』進級Ⅱ98P)

例3 この説明書は(複雑です→)、よくわかりません。

(『みんなの日本語』進級Ⅱ145P)

例4 さ来週にパソコン教室を開きますので、____この説明書をよく読んでおいてください。

(『みんなの日本語』進級Ⅱ148P)

例5 いつ大学に願書を出しますか。

(『進学日本語』初級Ⅱ51P)

例6 事務室へ行ってください。(証明書が必要)

(『進学日本語』初級Ⅱ56P)

例7 向こうに再入国許可申請書がありますから、それに必要なことを書いてください。

(『進学日本語』初級Ⅱ66P)

例8 A大学は自分で大学まで願書を____ B大学は____郵便で送ってもいいそうです。

(『進学日本語』初級Ⅱ77P)

例9 大学の願書の締め切りは今日だから、すぐ____。(『進学日本語』初級Ⅱ77P)

2-3 「～書」の造語及び中国語訳(注13)

遺書 伺い書 営業報告書 請書 売上勘定書 学習参考書 願書

(遺書) (請示的報告) (商業報告) (承諾書) (銷貨明細帳) (學習参考書) (請願書)

祈祷書 議定書 教科書 供述書 契約書 提案書 死亡診断書 始末書

(禱告書) (議定書) (教科書) (供状) (契約書) (提案) (死亡證書) (悔過書)

趣意書 証明書 診断書 請求書 声明書 投書 答弁書

(宗旨書) (証明書) (診断書) (帳單) (聲明書) (投書) (被告的答辯書)

判決書 報告書 遺言書 明細書 履歴書 在学証明書

(判決書) (報告書) (遺言) (清單) (履歴表) (在学証明書)

2-4「～書」の分析

- ①. 漢語の語彙は「議定書」「教科書」「説明書」「答弁書」などであるが、中国の『辭海』にもこれらの語彙があり、中国語と日本語は同じ意味で使われる。また完全な「音読み」の語彙である。
- ②. 和製漢語の語彙は「勘定書」「始末書」「趣意書」などで中国語にはないため、漢字をみただけでは誤解をまねやすい。
- ③. 「遺書」「遺言書」「遺言状」等、これらは日本語では同じ意味であり、中国語訳だと(遺言・遺囑・遺書)となるが、中国語では遺書と遺言は同じではなく、「遺留として残されたもの」の意味もある。
- ④. 「履歴書」(履歴表)、申込書(申請表)のように中国語では書が表となる。しかし、「申込書」と「申込状」を比べると、「申込書」は「申込状」に等しい。更に「申込書」は「申込状」より使用範囲が広いと言える(注14)。
- ⑤. 「申込書」と「申請書」の中国語訳は同じ(申請書)であるが、「申込書」は一般的な申請の時に、「申請書」は官庁方面の申請に使う。
- ⑥. 「推薦状」=「推状」(注15)。どちらも中国語では(推薦書)となる。「推薦状」「推薦書」はどちらも中国語では(推薦書)となる。日本語では「状」は「書」より文語的であるが、日本語教科書には両方とも使用されている。ちなみに「案内状」の中国語訳は(通知)で、「案内書」の中国語は(導覧)である。
- ⑦. 「免許状」=「免許書」はどちらも中国語では(許可證)となる。
- ⑧. (書状)は中国の「辭海」の説明によると a 手紙、b 法律名詞となっており、訴訟当事者がその意見を表示するもの。訴訟書、答弁書、声請書などとなる。

3「～費」

3-1「費」の意味

甲.三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

漢語の造語成分。

乙.講談社の「国語辞典」においては

かかり。学費・経費・出費。《接尾的》接待費・人件費・交通費。

丙.岩波の「国語辞典」では

物を買ったり仕事をしたりするために使う金銭。ついで。費用。

3-2 「～費」の用例

以下に実例を示し、分析を加えてゆく。()内は教科書名、ページ数。

例1 7月6日(土) YWCAホールで「七夕コンサート」があります。

時間は夕方6時半からで、参加費は1300円です。(『理解から発話へ』解答留意点8P)

例2 1月25日 1,500円(交通費) (『日本語教育事典』488P)

例3 その映画は制作費も宣伝費も相当使った。(『日本専門教育』「接続詞初・中・上級」64P)

例4 中村院長さんはその何十万円もの治療費を無料で引き受け、しかも、けがが良くなると、ボンちゃんを山へ帰してやりました。(『こんにちは日本』1月号48P)

例5 そうですね…交通費と宿泊費と食事代と、ぜんぶで三万円ぐらいで足りると思います。(『こんにちは日本』7月号92P)

例6 みんなで会費を出し合って、山田さんのうちでクリスマス・パーティを開くことにしました。(『こんにちは日本』12月号94P)

3-3 「～費」の語彙及び中国語訳(注16)

衣料費 医療費 運動費 営業費 会費 学費 機密費 共益費 交通費
(服装費)(医療費)(活動費)(営業費)(會費)(學費)(機密費用)(公益費)(交通費)
国費 經常費 経費 交際費 光熱費 公費 工費 固定費
(國家経費)(常費)(経費)(交際費)(電燈和燃料等費)(公費)(工程費)(固定費用)
歳費 雑費 私費 事業費 参加費 接待費 出費 食費 人件費
(一年的費用)(雑費)(私費)(事業費)(参加費)(接待費)(開銷)(伙食費)(人事費)
生活費 生計費 創業費 党費 補助費 燃料費 予備費 寮費 旅費 臨時費
(生活費)(生活費)(創辦費)(黨費)(補助費)(燃料費)(預備費)(宿舍費)(旅費)(臨時費)

3-4 「～費」の分析

- ①. 今回参照した資料によると「～費」は漢語に接続するケースがもっとも多い。
- ②. 「営業費」「学費」「国費」「経費」「公費」など中国の『辞海』にも載っており、意味も日本語と同じである。これらは完全な「音読み」の語彙である。
- ③. 「出費」「寮費」「人件費」は「音読み」の語彙であるが、「和製漢語」である。
- ④. 「授業料」より「学費」の使用範囲が広い。
- ⑤. 「生活費」「生計費」は漢語で、中国語も日本語も同じ意味で使われる。(生活費)

は中国語でよく使われているが、(生計費)はほとんど使われていない。

⑥. 「入学費」は「入学金」と同じ意味である。

4 「～料」

4-1 「料」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

漢語の造語成分。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

だいきん。給料・無料。《接尾的》観覧料受験料。

丙. 岩波の「国語辞典」では

代金、または代物。

丁. 広辞苑においては

①使用するためのもの。材料。しろ。

②代金。代価。

③ため。分。

4-2 「～料」の用例

以下に実例を示し、分析を加えてゆく。()内は教科書名、ページ数。

例1 夜中にもかかわらず、すぐに出てきて、タヌキの治療を無料でしてくれました。

(『こんにちは日本』1月号46P)

例2 中村院長さんはその何十万円もの治療費を無料で引き受け、しかも、けがが良く

なると、ボンちゃんを山へ帰してやりました。(『こんにちは日本』1月号48P)

例3 でも、同じ仕事をして給料が違う、能力があっても仕事をさせてもらえない。

(『こんにちは日本』4月号42P)

例4 それに不動産屋への紹介料…しめて、ざっと60万円也!

(『こんにちは日本』4月号50P)

例6 給料も(高いです→)し、仕事も(楽です)し、ずっとこの会社で働くつもりです。

(『みんなの日本語』進級II145P)

例7 どうしてあの大学は試験を受ける人が多いですか。(授業料が安いから)

(『進学日本語』初級II15P)

例 8 九月に授業料を払います。 (『進学日本語』初級Ⅱ 78P)

例 9 学生だと給料が安くてもその仕事をしますか。(はい、面白い仕事ですから)

(『進学日本語』初級Ⅱ 138P)

例 10 職場での人間関係がうまくいかないとか、給料が少ないとか……。

(『文化中級日本語』Ⅰ 86P)

4-3 「～料」の語彙及び中国語訳 (注 17)

慰謝料 運送料 延滞料 菓子料 為替料 観覧料 救助料 給料
(贈養費) (運費) (滞納金) (點心錢) (匯費) (參觀費) (救護費) (薪水)
着料 食い料 口止め料 倉敷料 化粧料 原稿料 見料 小作料
(買衣服錢) (生活費) (堵嘴費) (倉庫保管費) (化妝費) (稿費) (観覧費) (地租)
授業料 受験料 潤筆料 使用料 送料 損料 茶料 手数料
(學費) (報考費) (潤筆費) (租金) (運費) (損失費) (茶費) (傭金)
入場料 飲み料 拝観料 保険料 無料 免許料 薬料 郵便料
(入場費) (酒錢) (參拜費) (保險費) (免費) (証件費) (藥錢) (郵費)
有料 割引料 宿泊料
(收費) (打折扣) (住宿費)

4-4 「～料」の分析

- ①. 「～費」と比べて「料」のほうが「和語」と結合しやすい。
- ②. 上記の「～料」の語彙は中国の『辭海』にはない。
- ③. 「慰謝料」「小作料」「受験料」「手数料」は「音読み」の語彙で、「和製漢語」であり、「為替料」は「かわせ(動詞交わすの転成名詞)」に「料」を加えた「訓読み」の語彙である。
- ④. 「給料」は使用頻度をもっとも高い語彙で、今回調査したすべての日本語教科書にでてくる基本語彙(注 18)のなかの基本的なものである。
- ⑤. 日本語教科書には「混種語」(注 19)の「サービス料」も出てくる。
- ⑥. 保険料も保険金も同じ中国語訳(保険費・保険金)である。
- ⑦. 日本語教科書には「紹介料」が出ているが、「国語辞典」には載っていない。

5 「～賃」

5-1 「賃」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

漢語の造語成分。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

働いた人、借りた物に払うお金。運賃・家賃。《接尾的》手間賃・汽車賃・運送賃。

丙. 岩波の「国語辞典」では

報酬の金。代価として払う金。

丁. 広辞苑では次のように述べている。

① 使用料。報酬。代金。「電車～」

② 報酬を支払って使用すること。

戊. 講談社の「日本語大辞典」においては次のようである。

① 給金。やとい人に与える報酬の金銭。用例《接尾的》手間賃。

② やとう。やとわれる。

③ かりる。借用する。

④ かす。

⑤ はたらいた人、また、かりたものがはらう金銭。

報酬。代金。使用料。「運賃・家賃」。用例《接尾的》汽車賃・運送賃。

5-2 「～賃」の用例

以下に、実例を示し、分析を加えてゆく。() 内は教科書名、ページ数。

例1 家賃で生計を立てている大家さんは、収入がなくなって困っている。

(『日本専門教育』「動詞 初・中級」54P)

例2 一か月の家賃の他に、権利金、礼金、敷金、それに不動産屋への紹介料……

(『こんにちは日本』4月号50P)

例3 こちらはいかがですか。家賃は8万円です。(『みんなの日本語』初級II 101P)

例4 家賃はもう_____あります。(『みんなの日本語』進級I 66P)

例5 このうち・家賃が高い→このうちは家賃が高すぎます。

(『みんなの日本語』進級II 75P)

例6 このアパートは汚くて、狭いのに家賃は高いです→(『みんなの日本語』進級II 75P)

例7 このアパートは家賃が____、借りられません。(『みんなの日本語』進級II 78P)

例8 駅から遠くなればなるほど家賃が安くなる。(『文化中級日本語』I 15P)

5-3 「～賃」の語彙及び中国語訳(注20)

運賃 運送賃 賃貸 借り賃 汽車賃 車賃 工賃 駄賃
(運費) (運費) (租金) (租金) (火車票價) (車錢) (工資) (跑路費)
店賃 使い賃 手間賃 船賃 元払い運賃 家賃 宿賃 渡し賃
(房租) (跑路費) (工錢) (船錢) (在發地支付運費) (房租) (住宿費) (渡船費)

5-4 「～賃」の分析

- ①. 「工賃」は中国の『辞海』にもこの語彙があり、意味も日本語と同じで、「音読み」の語彙。
- ②. 現代中国語における「～賃」の語彙は(租賃)の意味である。例えば、〈租賃契約〉など。
- ③. 「駄賃」「宿賃」「賃貸」「手間賃」はすべて「湯桶読み」で、漢語ではない。
- ④. 「車馬賃」は「車馬料」・「車馬代」に等しい。
- ⑤. 「運送賃」は「運送」と同じ意味である。
- ⑥. 「宿泊賃」は「宿泊料」に等しい。
- ⑦. 「工賃」「手間賃」「手間代」の意味は同じ。
- ⑧. 「～賃」「～料」は和語と結合する機会が多い。
- ⑨. 「宿賃」は「家賃」より使用範囲が広い。

6 「～金」

6-1 「金」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

おかね。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

お金。現金・賞金。(接尾的) 報獎金。

丙. 岩波の「国語辞典」では

お金。

丁. 広辞苑においては

貨幣。通貨。また、昔中国では通貨の単位。金額を記すとき、数字の上に冠する語。「一金～万円也」。

6-2 「～金」の用例

以下に、実例を示し、分析を加えてゆく。() 内は教科書名、ページ数。

例1 現金がありませんので、カードで買い物をします。(『みんなの日本語』初級Ⅱ 115P)

例2 十分だと思います。でも、現金で持って行かないほうがいいですよ。

(『みんなの日本語』進級Ⅰ 82P)

例3 それだけですか。罰金は払わなくてもいいですか。(『みんなの日本語』進級Ⅰ 93P)

例4 貯金はしないですか。

貯金ですか、僕はあまり考えたこと、ありません。(『みんなの日本語』進級Ⅱ 53P)

例5 賞金は何にお使いになりますか。(『みんなの日本語』進級Ⅱ 135P)

例6 学生だと、料金が安くなりますか。(『進学日本語』初級Ⅱ 115P)

例7 子供なら料金が安くなりますが。(『進学日本語』初級Ⅱ 137P)

例8 奨学金のための推薦書を書いてもらう。(『文化中級日本語』Ⅰ 43P)

例9 現金ですが、……現金はなくなっています。(『文化中級日本語』Ⅰ 66P)

6-3 「～金」の語彙及び中国語訳 (注 21)

預かり金 頭金 後金 違約金 売り掛け金 延滞金 御手許金
(別人委託保護的存款) (訂金) (尾款) (違約金) (欠款) (過期未付的欠款) (皇室的费用)
貸金 義援金 義損金 基金 軍用金 権利金 現金 公共料金
(貸款) (損款) (損款) (基金) (軍事費) (權利金) (現款) (公共事業費)
公金 交通反則金 交付金 残金 敷金 仕切り金
(公款) (交通違規罰款) (政府等發的錢) (餘額) (租屋押金) (結帳時雙方收付款項)
資金 持參金 資本金 準備金 奨学金 賞金 償金 証拠金 傷病手当金
(資金) (陪嫁的錢) (資本金) (予備金) (奨学金) (賞金) (賠款) (保證金) (傷病津貼)
税金 政治献金 前期繰り越し金 送金 退職金 立替金 弔慰金
(税金) (政治献金) (前期結轉餘額) (匯款) (退休金) (代付款) (撫恤金)

貯金 賃金 積立金 年金 募金 報奨金 保険金 保証金

(存款) (工資) (存款) (定額養老金) (募款金) (獎金) (保險金) (保證金)
 身代金 身元金 元金 結納金 預金 預貯金 予備金
 (贖金) (身分保證金) (資金) (聘金) (存款) (儲蓄和存款) (準備金)
 料金 礼金 割増金 売掛金
 (使用費) (酬謝金) (加價金額) (賣貨的錢)

6-4「～金」の分析

- ①. 「違約金」「基金」「準備金」「奨学金」「年金」「保証金」「予備金」等、これらは中国の『辭海』にもあり、中国語と日本語の意味は同じである。又完全な「音読み」の語彙。
- ②. 「義援金」「持参金」「結納金」は「音読み」で「和語」、「手当金」「身代金」は「訓読み」で「和製漢語」である。
- ③. 「身代金」は「身の代」と略しても可。
- ④. 現代中国語の「賃～」を使った語彙に「賃金」があるが、「賃金」の中国語訳は(租金)で、日本語の「賃金」の中国語訳は(工資)である。
- ⑤. 「政治献金」は「和製漢語」で現在台湾のマスコミでもよく使われている。
- ⑥. 日本語の「前頭」と中国語の「前頭」は同じ意味であるが、日本語の「前金」と「頭金」は同じ意味ではない。
- ⑦. 「入学金」と「人学費」の意味は同じで、中国語訳も又同じである。

7「～代」

7-1「代」の意味

甲. 三省堂の「国語辞典」は次のように述べている。

漢語の造語成分。①. 家の長として、そのポストにある期間(人)。

②. その人の一生。世。「人は一代、名は末代。」

③. それを買ったり利用したりするのにいるお金。「お代・足代・洋服代・・・」

④. 「(電話の)代表番号」の略。

乙. 講談社の「国語辞典」においては

①. 家や位をうけもっている間。生きている間。例：初代・歴代。

②. よ。じだい。例：近代・現代・古代。

③. かわる。かわり。例：名代・代理。

④. 代金。例：足代・地代。《接尾》洋服代。

丙. 岩波の「国語辞典」では

①. かわりになる。他人にかわって仕事をする。

②. a. 用をするためのもの。「糊代」 b. かわりになるもの。商品や労力を得たかわりに与えるもの。「代価・代金・代償・足代・身代金」

③. 家督または統治権を相続して当主である間。

④. 歴史上の長い時間の区分。

⑤. 年齢の範囲を示す語。

丁. 広辞苑においては

代金。あたい。しろ。

戊. 講談社日本語大辞典では

①. 家や位をうけもっている間。生きている間。「初代・歴代」

②. よ。時世。近代・現代・古代。

③. 年の範囲。時期の範囲。

④. かわる。かわり。「名代・代理」

⑤. しろ。あたい。しはらう金。「足代・地代」《接尾》洋服代。洗濯代。

7-2 「～代」の用例

以下に、その実例を示し、分析を加えてゆく。()内は教科書名、ページ数。

例1 例一：食事代を割り勘にしませんか。 (『理解から発話へ』190P)

例2 1月25日 1,000円(ノート代) (『日本語教育事典』488P)

例3 そうですね…交通費と宿泊費と食事代と、ぜんぶで三万円ぐらいで足りると思います。

(『こんにちは日本』7月号92P)

例4 電報が高かったから、できるだけ短く書きました。 (『みんなの日本語』進級I 99P)

例5 電話代が高いので、手紙を書くようにしています。 (『みんなの日本語』進級II 24P)

例6 先月の電話代いくらかったか、教えてください。 (『みんなの日本語』進級II 36P)

例7 どうしてこのアパートに入ったのですか、部屋代が安いから。(『進学日本語』初級II 5P)

例8 月末になりましたから、アパートの部屋代を_____。(『進学日本語』初級II 77P)

7-3 「～代」の語彙及び中国語訳 (注 22)

ガス代 薬代 膏薬代 食事代 飯代 花代
(瓦斯費) (薬費) (醫薬費) (伙食費) (飯錢) (給藝妓歌妓の錢)
手間代 車代 茶代 薬代 ノート代 暖簾代
(手工錢) (車資) (茶錢) (醫薬費) (筆記費) (幫助伙計獨立開業の本錢)

7-4 「～代」の分析

- ①. 「だい」は「代」の「音読み」。現代中国語には「お金」の意味はない。
- ②. 「身の代」の「しろ」は「代」の「訓読み」で、「代金」の意味に使われる。普通は「身代金」という。
- ③. 「手間代」は「手間賃」と同じ。
- ④. 「～代」「～賃」の造語の傾向は「和語」と結合しやすいこと。
- ⑤. 「暖簾代」の語彙は日本語学習中には使う機会が少ないが、日本文化の学習でよく使う。
- ⑥. 「ノート代」は「混種語」。
- ⑦. 「飯代」と「食費」では「食費」のほうがよく使われる(注 23)。「食事代」は国語辞典にはないが、日本語教科書にはある。
- ⑧. 「部屋代」より「家賃」のほうが広範囲に使われる。

三. おわりに

これらの言葉に共通するのは、いずれも日常生活でよく使われるということである。「申込金」「参加費」「ノート代」「宿泊費」、これらは「国語辞典」にはないが、日本語教科書にはある。「宿泊費」と「宿泊料」では前者のほうが口語的なためかもしれない。漢語は、一般に改まった場面で使われたり、専門語であったりすることが多いのだが、これらは和語に近い語感を持つものとも言えるだろう。和語の語彙と言えるに「請状」「免状」「案内状」「暇状」「仕切状」「見舞状」など。中国語にはこのような語彙はない。ただ漢字の意味から考えると日本語とはまったく別の意味である。漢語の語彙の「議定書」「教科書」「声明書」「答弁書」などであるが、中国語の『辭海』にもこれらの語彙がある。中国語と日本語の意味は同じであり、日本語では完全な「音読み」の語彙である。「履歴書」(履歴表)、申込書(申請表)のように中国語では「〇〇表」となる。しかし、「申込書」と「申込状」を比べると、「申込書」は「申込状」に等

しい、または「申込書」は「申込状」より使用範囲が広いと言える。「案内」は和製漢語で「案内状」の中国語訳は(通知)で、「案内書」の中国語訳は(導覧)である。

今回参照した資料によると、「～費」は漢語に接続するケースがもっとも多い。「営業費」「学費」「国費」「経費」「公費」などは中国の『辭海』にも載っており、意味も日本語と同じである。これらは完全な「音読み」の語彙である。「学費」より「授業料」は使用範囲が広い。「入学費」は「入学金」と同じである。

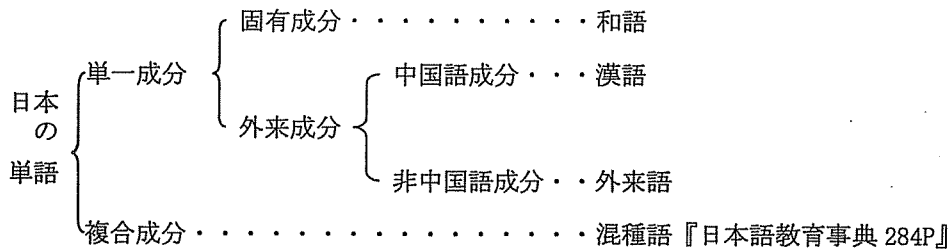
「～費」と比べて「料」のほうが「和語」と結合しやすい。「小作料」「受験料」「手数料」は「音読み」の語彙で、「和製漢語」である。「為替料」は「かわせ(動詞交わすの転成名詞)」に「料」を加えた「訓読み」の語彙である。「給料」は使用頻度をもっとも高い語彙で、今回調査したすべての日本語教科書に出てくる基本語彙のなかの基本と言える。日本語教科書には「混種語」の「サービス料」も出てくる。現代中国語における「～賃」の語彙は(租賃)の意味である。「駄賃」「宿賃」「貸賃」「手間賃」はすべて「湯桶読み」で、漢語ではない。「義援金」「持参金」「結納金」は「音読み」で「和製漢語」、「手当金」「身代金」は「訓読み」「和製漢語」である。「身代金」は「代」と「金」の結合である。現代中国語の「賃～」を使った語彙に「賃金」があるが、「賃金」の中国語訳は(租金)で、日本語の「賃金」の中国語訳は(工資)である。「～代」「～賃」の造語の傾向は「和語」と結合しやすいこと、「暖簾代」の語彙は日本語学習中には使う機会が少ないが、日本文化の学習で使われる。

注釈

注1. もとから日本語の中であって、外国から受け入れたものでない単語を「和語」といい、通常漢字で書かれ、かつ音読みになる語を「漢語」といい、中国以外から受け入れた語を「外来語」という。なお、以上の3種の二つ以上の結合によってできている語もあるので、それらを「混種語」とよぶ。

こうして、日本語の語彙を量的に見た場合、漢語の力は実に大きなものとなり、和語は質を変えない限り、第2位に落ちこんでいて、これらの点が日本語の語彙の量的・語種的構造の特徴となっている。日本語教育の面でも、こういう和語の位置と漢語の相対的重みとについては大いに配慮すべきであろう。いま一つ、和語について指摘しなければならないことがある。それは語感の問題である。…たしかに、諸語の語彙調査からも、漢語の造語力のつよさが看取されるが(『日本語教育事典 285P』)、

語彙は語の集合である。日本語は10世紀以上にわたって、外国の語彙要素をかなり自由に受け入れてきたために、現代の日本の書き言葉では、常用語数の半数以上を漢語・外来語が占めるという状況になっている。このことは、日本語語彙の語種構造における一特色となっているが、同時に、複雑な類義関係の語のセットを数多く作り出す原因ともなっている。『日本語教育事典 277P』



- 注2 a 『新明解国語辞典』 見坊豪紀 金田一春彦 著 株式会社三省堂
 b 『講談社国語辞典』 久松潜一 林大阪倉篤義著 株式会社講談社
 c 『岩波国語辞典』 西尾実 岩淵悦太郎永谷静夫著 株式会社岩波書店
 d 『広辞苑』 株式会社岩波書店
 e 『講談社日本語大辞典』 梅棹忠夫 金田一春彦 阪倉篤義日野原重明著 株式会社講談社発行
 f 『日本語教育事典』 小川芳男・林 大他編集 大修館書店
- 注3 a 『理解から発話へ』 名古屋YWCA 教材作成グループ作 日本3A出版
 b 『こんにちは日本語 1月～12月』 日高民子作統一語言出版
 c 『みんなの日本語』 初級 I II 進級 I II』 会社日本3A出版
 d 『進学日本語初級』 財団法人国際学友会出版
 e 『文化中級日本語』 日本文化外国語専門学校出版
 f 『日本専門教育』 動詞・助詞・接続詞 (日本) 専門教育出版
 g 『日本語文章能力検定3級問題集』 (財) 日本漢字能力検定協会監修
- 注4 a 『国語日報辞典』 何容主編 国語日报社 出版
 b 『辞海』 台湾中華書局辞海編輯委員會 中華書局出版
 c 『學生辞典』 黄錦金宏博士編著 旺文出版
 d 『説文解字集注』 蔣人傑編著 上海古籍出版
- 注5 『逆引き広辞苑』 机上版 岩波書店辞典編集部編

注6 『辞海』 台湾辞海編輯委員會。 中華書局出版

注7 ①. 『新時代日漢辭典』 陳伯陶 主編 大新書局 出版

②. 『新綜合日華辭典』 陳山龍 主編 鴻儒堂 出版

③. 『牛頓日漢大辭苑』 陳 濤 主編 牛頓出版股份有限公司

④. 『現代日漢大辭典』 宋文軍 主編 大新書局 出版

注8 資料I参照

注9 注7と同じ。

注10 資料II参照

注11 漢語1. 日本人に古くから受け入れられた外来語としての中国語。〔広義では中国語起原の字音語一般を指し、狭義では文章語として用いられるやや改まった感じのものを指す〕例、「忠孝」。←→和語。2. 日本人が造語した、非中国起原の字音語。例、「滑脱・介抱・景色」。和製漢語。 『新明解国語辞典 234P』

注12 「 」は日本語、()は中国語訳又は中国語。

注13 注7と同じ。

注14 申込書 申し込みをする用紙。またはその用紙に必要な事項を書き込んだ文書。

申込状 申込書。 講談社の『日本語大辞典』

注15 AはBに等しい。

注16 注7と同じ。

注17 注7と同じ。

注18 基礎段階で習得することが必要なものとして「基礎語彙」というものが考えられ、その具体的な内容についていくつかの提案が出されている。基本語・基礎語。『日本語教育事典』 小川芳男・林 大他編集 281P

注19 注1参照。

注20 注7と同じ。

注21 注7と同じ。

注22 注7と同じ。

注23 「食費」食事に使う費用。food expenses 講談社『日本語大辞典』1071P

参考文献

1 『日本文化辞典』 本名信行編著 東洋サービスセンター出版 1978年

- 2 『言語生活の目』 佐竹秀雄編著 筑摩書房 1989年
- 3 『日本語教育の知識』 小出詞子著 アルク出版 1989年
- 4 『語彙とその意味』 森田良行編著 アルク出版 1991年
- 5 『日本語と日本語教育—語彙編』 国語シリーズ 別冊 I 1978年
- 6 『紀要』第11b号 国際学友会日本語学校出版 I 1986年
- 7 『日本語の正書法』 小泉保著 大修館 1981年
- 8 「日文研」 国際日本文化研究センター n o . 15 1996年

資料 I (本文で挙げた以外の例を資料として挙げておく)

- 例 来学期の申込書、ありませんか。 (『理解から発話へ』 92P)
- 例 在学証明書、今週中にお願いできますか。 (『理解から発話へ』 164P)
- 例 申込書の書き方、わかりましたか。 (『理解から発話へ』 46P)
- 例 この提案書にはだいたい社長の主観が入っている。
(『日本専門教育』「動詞 初・中級」 46P)
- 例 今日大学に願書を出した。 (『日本専門教育』「動詞 初・中級」 50P)
- 例 課長は部下が書いた報告書を夜遅くまで見ていた。
(『日本専門教育』「動詞 初・中級」 85P)
- 例 履歴書は、提出する前によく確認しておくこと。
(『日本語文章能力検定』 3級問題集 55P)
- 例 領収書をお送りいたしましたので、ご査収ください。
(『日本語文章能力検定』 3級問題集 73P)
- 例 高橋さんは息子さんに頼まれた参考書を買いにきたのです。
(『こんにちは日本』 4月号 92P)
- 例 旅行のまえに、案内書を読んでおきます。 (『みんなの日本語』 進級 I 63P)
- 例 旅行・案内書を読みます→ (『みんなの日本語』 進級 I 63P)
- 例 説明書のとおりパソコンのキーを押してください。
(『みんなの日本語』 進級 I 104P)
- 例 説明書に書いてあります。この薬を飲んでください。
(『みんなの日本語』 進級 I 105P)

- 例 説明書をよめば、使い方がわかります。 (『みんなの日本語』進級 I 114P)
- 例 この説明書を読めば、使い方がわかります。
(『みんなの日本語』進級 I 120P)
- 例 説明書____とおりに、テーブルを組み立てます。(『みんなの日本語』進級 II 38P)
- 例 説明書をいただけませんか。(『みんなの日本語』進級 II 66P)
- 例 説明書が複雑ですなので、使い方がわからないのですが。
(『みんなの日本語』進級 II 75P)
- 例 これがコンピューターの保証書です。(『みんなの日本語』進級 II 82P)
- 例 あのう、この図書館ではコピーの領収書がもらえますか。
(『みんなの日本語』進級 II 82P)
- 例 先生、願書を書いたのですが、これで____。(『進学日本語』初級 II 165P)
- 例 願書の受付を1月30日に締め切ります。(願書の受付は)
(『進学日本語』初級 II 182P)
- 例 日本語を勉強するために、参考書、問題集などいろいろな教材があります。
(『文化中級日本語』I 21P)
- 例 こんど受験する学校の願書を書いた。(『文化中級日本語』I 35P)
- 例 参考書を紹介してもらおう。(『文化中級日本語』I 42P)
- 例 先生に願書をチェックしてもらおう。(『文化中級日本語』I 43P)
- 例 奨学金のための推薦書を書いてもらおう。(『文化中級日本語』I 43P)
- 例 会社に出す履歴書を書いて、今、それを持っている。
(『文化中級日本語』I 47P)
- 例 履歴書のチェックを先輩に頼む。(『文化中級日本語』I 47P)
- 例 すみません。日本語科の四組のチッサノンですが、〔成績証明書、在学証明書〕を発行して
いただきたいんですが。(『文化中級日本語』I 58P)
- 例 能力のある社員には高い給料を出す会社が増えている。
(『日本専門教育』「動詞 初・中級」51P)
- 例 残高が足りなくて、授業料が振り込めなかった。
(『日本専門教育』「動詞 初・中級」13P)

例 入場料は無料です。なお6歳以下の子供さんは入場できませんのでご注意ください。
(『日本専門教育』「接続詞 初・中・上級」25P)

例 突然父が病気になり、国からの送金が途絶えてしまった。そこで事情を話したら、特別に1年間授業料を免除してくれた。(『日本専門教育』「接続詞初・中・上級」28P)

例 年功序列で、年ごとに給料もあがってはいくのだけど、学歴社会だから、有名大学を出ていなければ、出世などは望めないし、… (『こんにちは日本』6月号24P)

例 給料が上がっても、物価がそれ以上に上がる。(『こんにちは日本』7月号32P)

例 では、五千円の部屋をお願いします。税金、サービス料込みですか。
(『こんにちは日本』11月号42P)

例 サービス料は6パーセントでございます。(『こんにちは日本』11月号44P)

例 パーティは無料です。(『みんなの日本語』進級I47)

例 給料・多いです・いいです→ (『みんなの日本語』進級I116P)

例 給料は欲しいですか。(『みんなの日本語』進級I121P)

例 ことしの四月に会社に入りましたのでまだ給料は安いです→
(『みんなの日本語』進級II98P)

例 ディズニーランドに行きたいんですが、それまでに申込金をお払ください。
(『理解から発話へ』 解答留意点14P)

例 会社を退職したので、年金で暮らしている。(『日本専門教育』「動詞初・中級」26P)

例 「お願いします。緑の羽根の募金をお願いします。(『こんにちは日本』4月号15P)」

例 一か月の家賃の他に、権利金、礼金、敷金、それに不動産屋への紹介料…
(『こんにちは日本』4月号50P)

例 不動産屋が紹介したのは人のもので、前金として何十万円もだまし取られたり、やっと買ったものの、建て方や材料に問題のある欠陥住宅だったり。
(『こんにちは日本』4月号52P)

例 借金が返せないで苦しんでいる人も大勢います。(『こんにちは日本』4月号52P)

例 会社をやめて、退職金を元手に何か始めよう。(『こんにちは日本』6月号26P)

例 料金は高校生まで千円、それ以上は2千円です。(『こんにちは日本』8月号43P)

例 「みなさん、お願いします。募金をお願いします。どうぞ、御協力をお願いします。」

(『こんにちは日本』12月号6P)

例 料金の分だけ楽しませて、時間がくると、かつてにさっさと消えてしまいます。

(『こんにちは日本』12月号40P)

例 カードで払うことができますか。…すみませんが、現金をお願いします。

(『みんなの日本語』初級II 58P)

例 現金で払います。

(『みんなの日本語』初級II 63P)

例 この部屋は静かですが、部屋代は安いです。

(『進学日本語』初級II 97P)

例 駅に近いので、部屋代が高いです。

(『進学日本語』初級II 111P)

例 部屋が古くても部屋代はかかります。

(『進学日本語』初級II 138P)

例 部屋代が高ければかりませんか。(いいえ、いい部屋ならかります。)

(『進学日本語』初級II 138P)

資料Ⅱ (本文の分析で挙げた以外の語彙を挙げておく)

出所 (広辞苑 岩波書店出版)

頭金: 1. もとになる金。2. 分割払い額。

運賃: 運送料。

運送料: 貨物または旅客の運送の報酬として受け取る対価。

貸賃: 貸した金銭。

借賃: ものを借りて払う料金。

工賃: 工作・加工などの手間賃。

準備金: 1. 企業家が将来の必要に備えるために積み立てておく、利益金の一部の保留金。

株式会社・相互会社などに対しては、法律を以て強制する。準備金には純益処分
の保留金、即ち準備積立金と将来の損失・負債の引当金との二種あるが、狭義に
は後者をいう。2. 責任準備金の略。3. 正貨準備金の略。

食費: 食事に要する費用。

生活費: 生活していくのに必要な費用。生計費。

生計費: くらしてゆくために必要な費用。生活費。

送料: 郵送または運送の料金。

手間代: 手間に対する報酬。手間賃。

手間賃:職人などの手間に対して支払われる賃金。手間代。

前金:代金を前もって支払うこと。また、その金。ぜんきん。

飯代:飯の代金。

免許状:官から免許の証として下付する文書。免状。免許書。

免状:1. 免許の証として授与する文書。免許状。2. 赦免の意を記載した文書。赦免状。3. 卒業証書の俗称。4. 領主からその年の年貢の高を記して各村に下した文書。

宿賃:1. 家の借り賃。家賃。2. 宿銭。

遺言書:遺言状に同じ。

遺言状:遺言を書いておく文書。

予備金:1. 予算外の出費、または緊急の費用のために備えておく金。予備費。2. 国会、裁判所の予算で、予見しがたい予算の不足に充てるために計上されるもの。国家予算の予備費にあたる。

予備費:予備のための費用。予備金。予見することのできない国家予算の不足に充てめに、予算中に設けるもの。内閣の責任で支出することができ、事後に国会の承諾をえなければならない。

出所(新明解国語辞典 三省堂出版)

遺書:遺言を書きしるした書き付け。遺言状。

学費:学校の授業料、月謝の総称。学資。

授業料:授業を受けるために生徒が納める金。